

8. 「提供者である私」から「担当 CM」への支援内容・経過の概要

9. 下記の場面を選んだ理由

10. 「提供者である私」と「担当CM」のやり取りの一場面（逐語）

「提供者である私」と「担当CM」の逐語	「提供者である私」の意図したこと・視点

11. 「担当 CM」が「提供者である私」の指導により気付いたこと（何を気付いたか、「担当 CM」の変化等）

12. 「提供者である私」の指導を自身で振り返り気付いたこと

「適切なケアマネジメント手法」を活用した指導を行った。あるいは行うとしたら「着目した項目」と「手法を活用したポイント」も記載ください。

例えば、「大腿骨頸部骨折Ⅱ期」に焦点があたる指導の場面で・・・

「小項目：2－1－4社会参加の機会の維持・拡大」「想定される支援内容：8. 日常生活における生活機能の回復と支援の終結」で、本人の骨折前後の家庭内や、地域・社会での役割がどのように変化したか、本人や家族がそれについて、どのように感じているのかを尋ねるとともに、利用している訪問リハビリテーションの職員からも、関わりの中から情報を得ることが大切であると、担当ケアマネジャーに指導するべきであった。

例えば、「心疾患Ⅱ期」に焦点があたる指導の場面で・・・

「小項目：1－2－2塩分量・水分量のコントロール」「想定される支援：5. 適切な塩分・水分摂取量の理解をうながす体制を整える」で、本人や家族の理解が足りず、医師からの指導通りに塩分・水分量が摂取されていなかったため、担当ケアマネジャーにかかりつけ医の看護師から情報をもらい、家族に毎日、塩分・水分日記をつけてもらえるように助言した。その結果、現在もAさんの再発防止ができていると考える。